

近代古墳保存行政の研究

尾谷 雅比古 著

▶ A 5判・384頁／定価 7,560円(税5%込) ISBN978-4-7842-1734-2 2014年2月刊行予定

近代日本の文化財保存行政について古墳を素材としてとりあげ、その背景にある国家の理念とそれに基づく施策、実施される行政行為の歴史的変遷をあとづける。

陵墓など古墳の取り扱い、近代天皇制イデオロギーの具現化をめざす国家の施策を、中央・地方庁を含む「行政」が実施する。本書では、従来の研究では抜け落ちていた「行政」に注目。河内長野市の文化財担当職員として長年勤めた著者が、行政と対峙する地域・民衆の動きにも目を向けて文化財保存行政を論じる。

〇〇予定内容目次〇〇

序章

問題の所在／先行研究の状況／本書の構成／抽出した歴史的公文書

第一部 古墳保存行政の変遷

第一章 近代古墳保存行政の成立

古墳の保存行政が始まった第Ⅰ期／古墳保存行政制度が形成される第Ⅱ期／名所、旧蹟、古墳墓の保存顕彰／古墳の保存行政が確立する第Ⅲ期

第二章 近代古墳保存行政の展開

史蹟名勝天然記念物保存法の制定にはじまる第Ⅳ期／文部省による史蹟行政がスタートした第Ⅴ期／戦時体制下の第Ⅵ期／戦争の終結から文化財保護法制定までの第Ⅶ期

第二部 古墳保存行政と地域社会

第三章 仲哀天皇陵墓伝承地の変遷

上原仲哀天皇陵伝承地の状況／江戸時代の陵墓伝承／近代の古墳と仲哀天皇宮（社）／古墳保存行政手続き

第四章 淡輪古墳群に対する保存施策

考古学資料としての淡輪古墳群／古記録に表れる淡輪古墳群／「宇度墓」の治定と取り消し／西小山谷古墳の仮指定と解除／西陵古墳の史蹟指定

第五章 百舌鳥古墳群の史蹟指定

三基の位置と概要／塚廻古墳の調査／宮内省買収の試み／史蹟の仮指定

第六章 大師山谷古墳の発見と顕彰

発見の経緯／埋蔵物録にみられる行政手続き／古墳及び古墳出土品の取り扱いに関する根拠法令／出土品、譲受金の行方／古墳の改葬と顕彰

第七章 九州における戦時体制下の古墳保存行政

新田原古墳群の改葬／六野原古墳群の改葬／目達原古墳群の改葬と都紀女加王墓の治定

終章

近代古墳保存行政の諸問題／地域の中の古墳

関係史料集

古墳墓等発掘関係布告、通牒、通達／古墳墓関係法令／古墳墓等官有地化／古墳墓保存建議関係／埋蔵物関係／史蹟関係

引用参考文献


図表一覧

索引

おたに・まさひこ…1953年大阪府生。関西大学大学院文学研究科博士課程前期修了（考古学）。（財）大阪文化財センターを経て河内長野市教育委員会で文化財行政を担当。現在、河内長野市立図書館文化遺産普及啓発専門員、関西大学ほか非常勤講師。専門は日本考古学及び文化遺産、文化財行政史。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近代古墳保存行政の研究		本体7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1734-2	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい)				
	<input type="checkbox"/> 代引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
				本書HPのQRコード	
				書店番線印	

幕末維新期の陵墓と社会

上田長生著

畿内に広く散在する陵墓(天皇・皇族の墓)は、幕末維新期の政治変動を受け、大きくその性格を変えていく。本書では、陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目する。とりわけ文久～慶応期の画期性を恒常的な陵墓管理制度と皇霊祭祀が始められたことに注目し、陵墓管理・祭祀がもたらされた村・地域社会の側の動向を国毎の違いを明確にしつつ、管理を担った人々の内的論理に即して検討し、社会における天皇の位置付けや天応認識を実体的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

▶A5判・400頁/定価 6,510円

ISBN978-4-7842-1604-8

※歴史のなかの天皇陵

高木博志・山田邦和編

天皇・皇族の墓である陵墓は、現在宮内庁の管理下にあり、一般の立ち入りが厳しく禁じられている。そのため、文化財としての陵墓の調査・研究は進んでいなかったが、近年になって、学界の要請をうけて神功皇后陵(五社神古墳)が研究者に限定公開され、仁徳天皇陵(大山古墳)が世界遺産暫定リストに登録されるなど、社会的にも大きな関心を集めている。各時代に陵墓がどうあり、社会のなかでどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。研究者によるコラム14本に加え、執筆者による座談会を収録。図版多数掲載。

▶A5判・340頁/定価 2,625円

ISBN978-4-7842-1514-0

近代日本の歴史都市 古都と城下町

高木博志編

「古都」京都・奈良、「加賀百万石」の金沢、伊達政宗の仙台など、都市は実にさまざまな歴史性をまとっている。しかしそれらは、近代化の過程で発見され、選び取られたイメージであった。本書は「都市の歴史性」をキーワードに、分野を超えた研究者たちが参加した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代古都研究」班の成果。【内容】郡区町村編制法と京都/明治期「洛外」の朝廷由緒と「古都」/京都の風致地区指定過程に重層する意図とその主体/平城神宮創建計画と奈良/「城下町金沢」の記憶/誰が藩祖伊達政宗を祀るのか/武士と武家地の行方—城下町尼崎の19世紀 他

▶A5判・600頁/定価 8,190円

ISBN978-4-7842-1700-7

※近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

京都という歴史都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちの研究成果。【内容】都市改造の自治喪失の起源/都市計画事業として実施された土地区画整理/地価分布からみた近代京都の地域構造/丹後加悦の縮緬産業と近代の町並み/近代京都と桜の名所 他

▶A5判・628頁/定価 9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

※みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

歴史都市・京都は、実は近現代に大きく変わったまちであった。研究分野の相違を問わず、また、時流の政治や論調に動ずることなく、「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じ、近代現代京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試み85篇。

▶A5判・268頁/定価 2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

※阪神・淡路大震災と歴史的建造物

加藤邦男編

人と建築の未来のために 平成7年1月17日未明、阪神淡路の内陸部を襲った直下型大地震が招いた建築物被害のうち歴史的建築物の被害状況を把握し、被災地区における復興、復元、修理補強の方策を探るのみならず、文化財建造物の将来にわたる保全、利活用における技術方策と環境の歴史的文化的価値の問題を再検討してさまざまな提言を示す。

▶B5判・280頁/定価 8,190円

ISBN4-7842-0964-6

京・近江・丹後大工の仕事 近世から近代へ

建部恭宣著

江戸時代から明治・大正にかけての京・近江・丹後における大工の活動状況を明かした労作。寺院造営における大工の仕事、就労状況、町大工の構成と作事棟梁制度の変遷、幕末の藩士住居の図面と用材など、史料の精査に基づいて大工活動の実態と近代化への歩みを考察する。

▶A5判・270頁/定価 5,775円

ISBN4-7842-1282-5

近代日本公園史の研究

丸山宏著

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。

▶A5判・400頁/定価 8,820円

ISBN4-7842-0865-8

大地へのまなざし 歴史地理学の散歩道

金田章裕著

古代日本の条里制から世界地図まで、歴史地理学のおもしろさを紹介するとともに、グローバルな研究を展開してきた著者が折りに触れて書き継いできた諸論稿をまとめる。

【内容】Ⅰなりわいと大地/Ⅱはるかなる大地/Ⅲ福福おりなす大地/Ⅳ時空を越えたまなざし

▶A5判・322頁/定価 4,725円

ISBN978-4-7842-1405-1

古文化財の科学

山崎一雄著

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果をまとめる。正倉院宝物の調査、装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・栄山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する諸報告を収録。

▶A5判・380頁/定価 6,615円

ISBN4-7842-0482-2

※高句麗壁画古墳と東アジア

門田誠一著

高句麗の人々が営んだ古墳は独特の形状と内容を持ち、さまざまな視座からの研究が行われてきた。本書では壁画に描かれた図像や題材のなかで、もっとも重要な対象である墓主像に焦点をあて、文献や金石文と照らし合わせながら体系的に考察する。高句麗社会と文化の一端を復元し、東アジアの歴史的時空の再構築をめざす労作。

▶A5判・448頁/定価 9,030円

ISBN978-4-7842-1546-1

日本古代都市史研究 古代王権の展開と変容

堀内明博著

永年、平安京などの都市遺跡発掘調査に携わった著者の研究成果。長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態、宅地と建物配置などの王朝都市から、白河・鳥羽殿、源氏・平氏の館などの中世前期都市まで、都城の展開と変容過程を時系列的に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果を踏まえて解明した一書。掲載図版多数。

▶B5判・514頁/定価 15,750円

ISBN978-4-7842-1457-0

※大津京跡の研究

林博通著

天智天皇造営の大津宮の所在地については、多くの学説と論争があったが、1974年の著者による遺構発見以後、数十カ所の発掘が行われ、構造復原の作業が進められた。本書は、永年にわたる大津京論争に決着をつける、初の包括的な研究集成。口絵(8ページ25点の写真)および本文収録図版182点。

▶B5判・280頁/定価 9,240円

ISBN4-7842-1073-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。